

## 第2回 小学校再編に関する地域住民説明会（南小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 令和元年10月17日(木) 19時開始
- 場 所 : 南小松島小学校体育館
- 参 加 者 : 15名
- 教育委員会 : 小野寺教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 学校再編の目的  
② 学校再編の具体的方針  
③ 検討プロセス  
④ 今後の進め方  
6.質疑・応答(意見交換)  
7.閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○今後のスケジュールで、第1段階、小松島中学校区の完成が令和3年度から令和8年度に行われるとあるが、具体的にこれは、令和3年度から例えば、北校の子が南校に通ってくるのか、どういう再編なのか聞きたい。

→(回答)

まず、この南小松島小学校敷地の例で言うと、令和3年度から令和8年度までということ、令和3から8年までの6年間でやる予定としているが、この想定は、令和3年、4年をかけ、この敷地の中で校舎なり、体育館なり、どの場所にどのようなものを建てるのかという基本設計なり詳細設計を約2年かけて行い、その後4年かけて敷地内の施設を整備すると。当然、現在子どもが通学なされているので、当然通いながらの工事をしていくようになるが、想定としては、仮設の校舎を建てて、そちらに一旦移っていただいて、壊してと。まだ具体的な、どこをどうしていくかというのはこれからだが、そういう想定で、施設が出来上がるのが令和8年度ということで、開校予定が令和8年度ということで書かせていただいている。第2段階、第3段階、第4段階についても、ほぼ同じようなスケジュールで見込んでいる。

○今の話だが、わざわざ仮設の校舎を建てるのか。新しくするだけに、わざわざ仮設の校舎を作ってそれに費用をかけてまで校舎を作るのか。

→(回答)

それに関しては、今言ったのはⅢ-②の「検討プロセス」の「考察結果のまとめ」というところで、

建設費という欄があると思うが、この建設費を出すために、一般的なやり方ということで、コンサルタント会社が見積もった、そのやり方で仮設を建てて、その費用がこれぐらいということで見込んでいるが、実際、こちらを設計した際には、例えば運動場の反対側に一気に建ててしまっただけというのではこれから。今言ったのは、あくまでも想定の話だが、実際の、どこからどう建てていくか、というのはまだ決まっていない。

○だいぶお金が余った状態で建てていくという計算になっているんやね、これやったら。市の財政がどうなるか分からんのに、わざわざ仮設の建物を建ててまで学校を作るというのは、おかしい話ではないか。

→ (回答)

まず、建設をするが、現在通って来られてる子どもの安全が最優先。どういうやり方がいいのかと、これからだが、何もない場所に建てるということにはならないので、そういうことも検討している。

○そもそも再編の目的で、「予測不能な社会」というのが挙げられているが、確か「Society5.0」だったか、そういう面で国も子どもの教育を見直して進めているということだが、結局、「予測不能な社会」だから、学力をもっとつけないかということ、子どもの学力重視の教育方針になっていくのか。先ほどの説明の続きで、市小学校・中学校は「一律の教育水準」にすることが目的にあるとおっしゃっていたが、じゃあ今「一律の教育水準」でないのかというのがちょっと疑問で、新しいプログラミング教育するとか、時代に合わせた教育はあるだろうが、より学習レベルを高くするような方向に今後なっていくのか分からないので、そこをどういう教育の水準になっていくのかをお聞きしたくて、分かる範囲で教えていただけたらと思う。

→ (回答)

学力の捉え方にもいろいろあると思う。テストで何点以上取れるとかも学力であるし、多くの子どもたちとともに協力しながら何かをやっていける、というのも学力に含まれる。この「予測不能な社会」というのは、皆さん方がお気づきの部分であると思うが、最近、技術革新とか、AI とかっていうものがすごく進展してきており、スライドの中でも説明させていただいたが、65%の仕事がなくなっていき、存在しない職業に就くことになると言われていた。中学校3年生で、進路指導をする中で、どこの学校に行こうか、将来どんな仕事に就きたいかという話をするとき、この仕事って本当に子どもたちが高校進学して、3年経った後、あるいは大学卒業して4年経った後にあるのだろうか、と考えながら進路指導をした記憶がある。

そこで、子どもたちに必要な力とは何かと考えたときに、これからいろいろな仕事がなくなっていく中で、自分に合うものとは何だろうと、たくさんの情報の中から自分にとって有用なものを見つけ、いろいろな考え方を持った子どもの中で、地域の方や保護者の方と話をしながら、自分はこういうものが合うとか、話しながら自分の価値観というものを見つけていってもらいたいなと思っている。自分のなりたい職業に就く、あるいは納得のいく解を見つける。そういうところにつながるのも「学力」というように言われると思う。そのようないろいろな見方の学力があるので、それを重視して、そのような教育が行えるような環境を整えていきたいと考えている。

○さっきの学校の、建設の第1段階から第4段階までの話に戻ってしまうが、例えば、小松島中学校区

であれば令和3年から始まるということだが、令和3年から令和8年までで設備を改修していくというお話はさっきあったが、それに対して1校に編成される小学校が数校あるが、これが一度に1校に再編されるのか。あるいはこの第1段階の中でも、1校ずつ再編されていくのか。

→ (回答)

第1段階、南小松島小学校で設備が完成したら、そのときに、今予定している小松島小学校、北小松島小学校、千代小学校、芝田小学校のほうは、その開校に合わせて・・・

○同時に1校に合わせてということか。

→ (回答)

そう。

○分かった。

○さっきの方と同じところの確認で、資料のⅡ-③ところの「学校再編の具体的方針」というところ、南小学校跡地には令和3年度から令和8年度というところでお話いただいたと思うが、これに関しては、あくまで確認だが、現在建っている校舎のところにも、仮設を作って建てるかもしれんし、仮設を建てずに今空いているグラウンドのところ建てるっていう可能性も各校区にとってある。あくまでこれは、コンサルさんが出してる一般的な案であって、期間に関してもそういうように全部行ったうえでの、結構長めの案ということよろしいか。

→ (回答)

コンサルタント会社からの案では、仮設校舎を建てて、当然、児童は通ってきながらの工事になるので、そういう意味でも期間は長めにとっているが、基本設計、詳細設計していく中で、仮設を建てるか建てないか、また場所はどこにするのかということもこれから決めていきたいと考えている。

○もう1点。資料の9ページ、Ⅲ-⑱の「検討プロセス」の通学距離の許容範囲のところ、もう一度ご説明いただけるか。

→ (回答)

先ほどのⅢ-⑱のところだが、これは今年の7月に実施した、小学校及び就学前教育の関係保護者アンケートの結果であり、「通学距離として許容できる範囲はどれぐらいですか」という質問。一番多かったのは「徒歩20分未満」で57%だが、それぞれ「10分未満の方」「20分未満の方」「30分未満の方」の3つを合計したものが95%であったが、それ以外の逆に言えば、30分以上でも許容できると答えた人は5%の方しかいなかったと。そういう結果ということで、先ほど説明をした。

○ちょっと表現が違う。許容できる範囲が、30分以内が95%あるのではなく、「30分だったら許容してもいいよ」という保護者さんが22%。「10分だったら許容できる」が16%で、「20分だったら許容できる」というところが57%。「30分以内が許容できる範囲が95%いる」というわけではない。ちょっと書き方が違うかなと思って言った。

○2ページのⅠ-⑤の「学校再編の目的」のところ、いじめ認知の件数、不登校児童生徒数と暴力行為

の加害児童生徒数の増加が解消になるって書かれているが、なぜこれが解消になるのかが気になり、現在もいじめとかも現代社会の問題にもなってるし、なぜ再編によって全てが解消になるかというのか。  
→ (回答)

もともとのデータは、文部科学省のデータを用いたもの。小学校6年生から中学校1年生になったときに、ここにもお示ししているように、かなり急増するような形になっている。例えば、学年別のいじめ認知件数では、小学校6年のときは1万8,000件程度が、中学校1年生になったときには、2万7,000件というように、かなりの増加をしている。不登校児童生徒数も、小学校6年生では8,000件程度であるものが、中学校1年生になったときに、2万2,000件というように、この段階で急激に増える傾向がある。

小学校、中学校で先生方で連携をとることで、小学校のときにこのような活躍をしたとか、このような子どもだったとかってような情報を事前に中学校の教員が知ることができる。逆に、小学校の先生が小学校6年生で終わりではなく、それから以降も例えば、中学校に足を運ぶ機会があれば、自然と先生方で、今こんなことやってのだな、頑張ってるなど自然に話が生まれ、いろいろな課題もその中で、共有することもでき、そのことが、子どもたちに対してよりよい形での指導になるっていうようなことになり、たちまち解消ということはないかも知れないが、子どもたちの情報を多く共有することによって、よりよい指導ができるという意味で、「解消」というふうなことで書かせていただいた。

○個人的に坂野に懇意にしている方がいて、坂野って少人数制で人数非常に少ないが、私は南小松島に通っていたし、子どももここに通わせているけど、多い人数で、ここに書いてる多様な価値観で交わることに価値があるというタイプの間人です、私。でも、敢えて少ないところに通わせる、そっちのほうが子ども自身がのびのびできるっていう価値観を持たれている方もおいでるみたい。なるほど、そういうほうがのびのびと自分の子どもが健やかに育つことができるんやな、っていうこともその方と交わって学ぶこともあり今回大きくなって合併することで1学校あたりの児童数は当然多くなるが、クラス編成みたいなものは、やっぱり当然1学級30人ですかね、今は、35人か。といいながら実は1クラス10人とか、そんな程度しかない学校があつて、そっちの価値を見出される方もおいでるが、そういう方に対するフォローみたいなのは、何かお考えのところってあるのか。

→ (回答)

私自身、少人数の学校で担任させていただいたときと、徳島市内にもいたので、学年6クラスくらいある学校で担任をさせていただくという機会もあったが、その中で、少人数の学級というのは、小さいときから、幼稚園ぐらいのときからずっと小学校6年間、中学校3年間一緒ということで、言葉を交わさなくても何を考えているか分かっていて、凄く気心知れていい形が生まれたり、あるいは1クラスしかないんで、少ない人数なので、上の学年や下の学年の子どもも知り合いということで、温かい雰囲気、小規模校についてはそのような点をいい感じに思うこともある。

先ほど話させていただいた中でもあるように、これから子どもたちがずっとそのような環境で生活できたら、それに越したことはきつないんだろうと思う。が、これから進学していく中で、あるいは就職していく中で、多くの人間と交わって、その中で楽しいこともあると思うが、辛いこともある。そういう中で、多くの子どもと触れ合うことでいろいろな価値観、自分の世界だけでなく、いろいろな多角的な見方ができるようになっていくと思う。

ただ、子どもの性格によつたら、すごいワイワイガヤガヤと、大きい学校で過ごされる子ども、そつ

ちが合うなという子どもの保護者の方もおいでと思うが、逆に、そういったフレンドリーなずっと自分の子どものことを知っている環境の中で育っていったらいいなと思われている保護者の方もおいでと思う。ただ、今回の再編では、校区というのがあり、校区ごとに再編していくということで基本方針の方でもさせていただいて、それに応じた実施計画というようになっているので、この度に関しては、そのような形になっている。ただ、ご家庭の事情によっては、委員会に申請して、協議して、許可が下りてから別の学校にということもあるが、基本的には、基本計画の中では、校区ごとということをお願いしている。

○資料のⅠ-⑤のところ、小学校と中学校の連携に関するところ、小学校と中学校の教員間のコミュニケーションについてはさっき説明していただいたが、例えば、これから小学校6年生の子が中学校に上がるっていうときに、小学校の教員さんから児童の方に、例えば中学校はこういうところが違うんだよとか、そういったような中学校に上がったときに、先生がこれ言ったことやなっているように、子どもたちがスッと呑み込めて馴染んでいけるような、そういう計画ってあるのか。

→ (回答)

現在は、例えば、中学校入学前に同じ小学校、子ども同士で行事、人権学習をしたりっていうことで、入学前に同じ中学校に行く小学校同士での交流はある。今のところ継続的に何かをしている部分っていうのはないと思うが、今後再編によって学校数がこのようにまとめられることによって、その中でそういった交流の時間とか、異校種間、小学校・中学校の連携もとりやすくなるので、今後はそういったことに関して、スライドでも説明したが、準備委員会を立ち上げ、それに対しての専門部会の中で、学校の先生とかも含めて話し合いをして、よい形で小学校から中学校へとつなげられるようにしていきたいとは考えている。

○編成することで、教員だけでなく、子どもも、中学校・小学校の垣根がなくなるような方向に今進んでいったらいいなと思わしていただいた。ありがとうございました。